

大阪狭山市文化財報告書37

大阪狭山市内遺跡群 発掘調査概要報告書20



平成22年(2010年)3月

大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書20



平成22年(2010年)3月

大阪狭山市教育委員会

序 文

大阪府南部に位置する大阪狭山市は、西高野街道をはじめとして、中高野街道などがあり、高野山に向かう主要な街道沿いの街として発展してきました。こうした環境のもとで、これまで多くの歴史的遺産を受け継ぎ人々の生活の場を育んできたことを、20を超える市の遺跡は物語っています。また、市の代表的な文化財である7世紀に造られた狭山池は、今もなお、南河内地域の主要な溜め池として田畠の水を湛え、春には「狭山池まつり」が市民のみなさまとともに営まれるなど、市民の憩いの場として、その役目を担っています。

大阪狭山市は、大阪の都市圏への衛星都市として発展してきました。その一方で、宅地開発や住宅の建築は、地下に眠る埋蔵文化財に大きな影響を及ぼしてきました。そのような埋蔵文化財について、本市では国の補助を受けて調査を実施しています。

本書は、平成21年度に国の補助を受けて実施した緊急発掘調査の概要報告です。本書が、永きにわたって受け継がれてきた歴史遺産の保護と理解のための一助となれば幸いです。

調査の実施にあたっては、土地所有者、施工関係者、近隣住民の皆様に、深いご理解と多大なご協力を賜りました。このような方々のご協力により、大阪狭山市の文化財保護行政が推進できましたことを、ここに厚く感謝いたしますとともに、今後もより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成22年(2010年)3月31日

大阪狭山市教育委員会
教育長 宮崎順介

例　　言

1. 本報告書は、平成21年度国庫補助事業として、大阪狭山市が実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。
2. 本書に収録した調査は以下の通りである。
 1. 狹山藩陣屋跡　　08－1区、09－1区
 2. 東野庵寺　　　　09－1区
 3. 陶邑窯跡群　　　09－1区
3. 発掘調査は、大阪狭山市教育委員会社会教育・スポーツ振興グループ植田隆司（現大阪府立狭山池博物館）・藤田徹也が担当した。
4. 発掘調査及び内業整理については、下記の方々のご協力を得た。
若宮美佐、橋本和美、扶川陽子、桑本彰子、水久保祥子、年未亮平、鳥山文夫、米澤孝成、尾崎陽一
5. 本書の執筆・編集は藤田が行った。

本文目次

(頁)

序文　　大阪狭山市教育委員会教育長　宮崎順介

例言

はじめに.....	1
1. 狹山藩陣屋跡.....	3
S J 08－1	4
S J 09－1	6
2. 東野庵寺.....	13
3. 陶邑窯跡群.....	15
4. 試掘調査（狹山1丁目）.....	18
平成21年度　試掘調査一覧表.....	19
報告書抄録	

はじめに

大阪狭山市は、大阪府南部に位置し旧国で言えば河内国に属する。市域の北側と西側は堺市と隣接し、西側では旧国和泉国との境となっている。

市域のほぼ中央にある狹山池は、旧天野川沿いに形成された沖積低地を下流で堰き止める形で設けられたダム式のため池である。その低地部分の東西に低位・中位段丘がそれぞれ形成され東は羽曳野丘陵、西は泉北丘陵に至る。こうした東西の丘陵に挟まれた市域の形状が地名「狹山」の由来となっている。

市域の東西に形成された段丘面は、巨視的にみれば南の河内長野市から、北に隣接する堺市まで緩やかに傾斜し標高を下げていくが、市域の中では最も広い平坦面となっている。こうした平坦面は、中世以降、東は中高野街道、西は西高野街道が通り、それに平行するように遺跡が並ぶ。現在でも、東は南海高野線が、西には国道310号線が走り、近年の開発動向にも影響を与えていている。こうした状況は、今年度の調査においても色濃く反映していると言える。

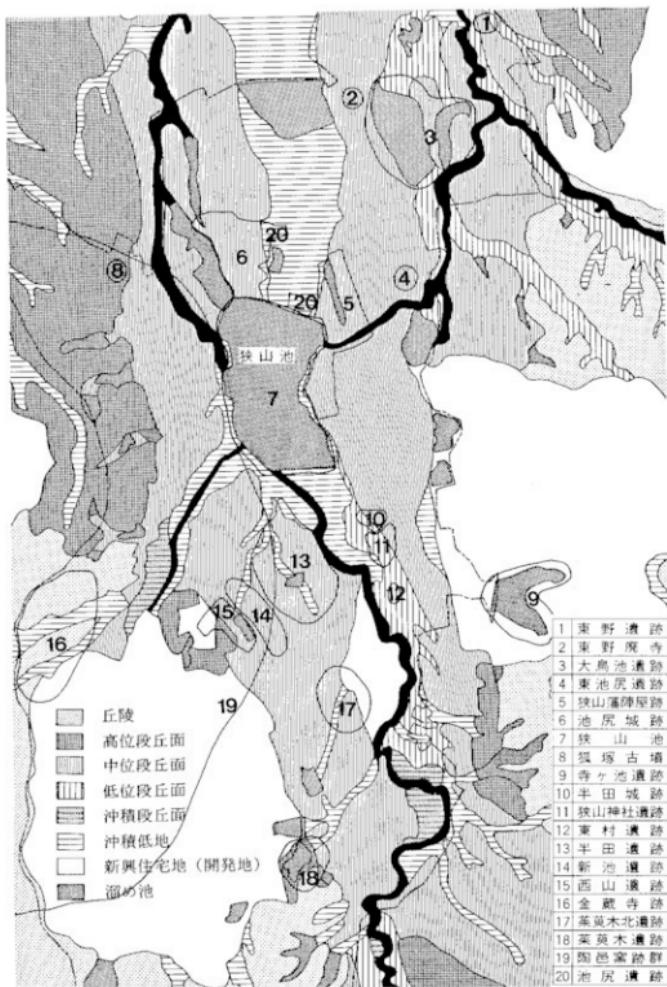
一方、歴史的な動向をみていくと、旧石器時代の所産と考えられる遺物も認められるものの、旧石器時代・縄文時代の遺物はいずれも表探資料のみである。表探地点の多くは、現在ため池として利用されている所が多く発掘調査等は行われていないため、詳細は不明である。また、弥生時代についても市域南部に位置する茱萸木遺跡の発掘調査において後期の高地性集落が確認されたと伝えられているが、詳細は不明であり、市域において人々の営為が発掘調査によって明らかになるのは、古墳時代以降である。

旧天野川流域に形成された沖積低地に立地する池尻遺跡では、庄内式の甕・壺と布留式の甕が出土し、溝や土坑、焼土坑の検出もされている。

中期になると、市域西部一帯に広がる陶邑窯跡群が形成され、後期になると須恵器窯の分布域は拡大し市域の中央部でも確認されるようになる。古墳時代における集落遺跡の動向は不明な点が多いが、旧天野川右岸に位置する狹山藩陣屋跡下屋敷の調査ではT K47型式の須恵器が出土していることから、中位段丘上に集落が営まれていた可能性が高く、今後の調査の進展に期待するところが大きい。

古代になると狹山池が築造され、また狹山神社、東野廃寺などが成立するが、集落の動向は不明である。ただし、本報告書に記載した新規発見の半田北遺跡からは、細片ながら黒色土器A類椀が認められ、古墳時代から中世の間を埋める資料として注目される。中世以降の遺跡では、狹山池北側に池尻城跡が成立、また、境内裏山に居館跡が残る狹山神社遺跡など、南北朝期を中心とした城館が確認されるようになり、また、泉北丘陵には、金蔵寺跡においても瓦質土器などが認められる。

近世段階に入ると、戦国大名北条氏の末裔によって狹山藩の陣屋が開かれ、上下屋敷とともに明治維新に至るまで一貫してこの地に営まれた。



第1図 大阪狭山市内の遺跡分布と地形分類

1. 狹山藩陣屋跡

狹山藩陣屋跡は、市域東部の中位段丘上西端に位置し、段丘の西側は旧天野川流域に形成された沖積低地となっており、その高低差は明瞭である。遺跡の東側には、中高野街道が通り、狹山藩陣屋上屋敷の南側で一次屈曲する形となり、再び南下し河内長野へと続く。中高野街道の成立については、発掘調査の成果が少なく不明な点が多いが、街道の通る中位段丘上には東野庵寺や狹山神社遺跡など古代に遡るものが多い。また、陣屋跡の西側斜面地には、須恵器の窯も点在している。

陣屋は、相模国小田原を拠点とした戦国大名北条氏の末裔によって元和2年（1616）に工事が開始され、寛永20年（1643）に上屋敷が完成したことが記録にのこり、その後、明治維新に至るまでこの地で陣屋が営まれていた。陣屋は北側の上屋敷と南側の下屋敷で構成され、藩主の御殿を含む家臣の屋敷が上屋敷に、藩主の別邸や下級藩士の住居が下屋敷に設けられていたことが絵図などによって明らかにされている。既往の調査によれば、上屋敷では北側の御殿を中心に上下2層の遺構面が確認されており、出土遺物の様相から、天明2年（1782）の大火で前後するものと考えられる。今年度調査をおこなった上屋敷では、個人住宅建設に伴う発掘調査が多く、全容が把握できるものは少ないものの、「狹山藩陣屋上屋敷図」や「狹山池懸絵図」に描かれているような、家臣の屋敷が密集している様相が読み取れる。

現在、遺跡内は宅地化が進んでおり、当時を偲ばせる景観はほとんど残っていない。しかしながら、個人住宅建設、建て替えに伴う発掘調査件数は、市域の遺跡の中でも最も多く、調査範囲は狭小ながらも、こうした発掘調査による資料の増加によって、陣屋の様相が徐々に明らかになりつつある。



第2図 狹山藩陣屋跡調査区位置図

S J08-1区

調査に至る経過

狹山4丁目において個人住宅建設に伴う発掘の届出が平成20年12月に出された。当該地は、埋蔵文化財包蔵地である狹山藩陣屋跡にあたり、これまでの周辺地域の調査成果から遺構面までの深度が浅く、個人住宅のような基礎が浅い建物であっても、破壊をうける可能性があったため、本発掘調査を行うことになった。

調査は、建設予定地の一部である8.5m²を対象とし、調査は、平成21年2月4日から5日まで行った。以下、調査で得られた成果を述べていく。

基本層序

現地表面から約30cmで地山となる。遺構の一部は地山面で検出したが、調査区の南側では、地山とはほぼ同レベルで近世段階の整地土が認められており、今次調査区では、この整地土と地山が混在する面で検出をおこなった。

地山と現地表面の間に自然堆積層は認められず、全て整地土であった。したがって、検出した地山面も後世に削平を受けているものと考えられる。

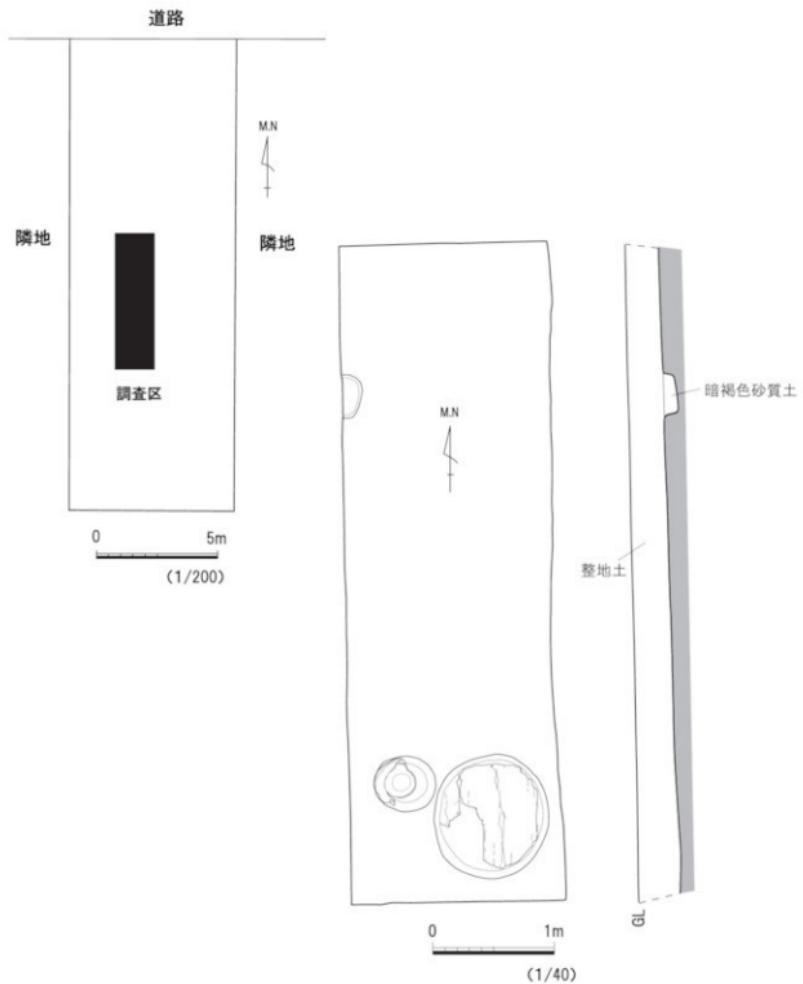
調査の成果

検出した遺構は、ピットと土坑に位置づけられるものである。その内、土坑に位置づけられるものには、土師器の壺(第7図-32)が据え付けられているものと、底部に木材が残存していたものがみられた。壺の残存状況から遺構の上部は、現代整地土によって削平を受けており、下記に示す遺物も、削平时に埋没したものと考えられる。

遺物のはほとんどは、2基の土坑と現代整地土から出土しており、これらに時期差は認められない。

1～5、7は、肥前系磁器碗の蓋である。蓋部の径は、8cm後半から9cm前半で收まり、内外面に染付絵柄が認められる。2は、6の中碗とセットになるもので、草木の絵柄と外面の見込み部の印が同じである。8は、ほぼ完形の肥前系磁器古皿で口径11.3cm、器高2.45cmを測る。外面体部に10点の文字が認められ、内面には染付絵柄がある。また、外面高台見込み部に「福」の印が認められる。9は瀬戸美濃系の小杯、10は産地不明磁器の小杯である。11は肥前系磁器、薄手の酒杯である。12は、瀬戸美濃系の中碗蓋で、口径約10.9cm、器高3cmを測る。13は産地不明の土瓶蓋で、天井部に染付が施されている。14は、京焼系の陶器土鍋蓋である。口径11.6cm、器高4.5cmを測る。15は、瀬戸美濃系の陶器水注である。外面体部に白泥を塗り染付が施されている。16は、瀬戸美濃系の陶器土瓶である。15と同様、外面体部に白泥を塗り、その後染付が施されているのが確認できる。17は、産地不明の陶器水注である。注ぎ穴中央部から外面にかけて透明釉がかかる。18は、肥前系磁器の中鉢である。口径14.4cm、器高6.8cmを測る。内外面とも透明釉がかかる。

19・20は、産地不明の磁器段重である。21は、瀬戸美濃系の中瓶で口径2.5cm、器高18.5cmを測る。体部に凹みが認められる。22は、陶器土鍋である。産地は畿内であると考えられる。外面体部は緑色釉の後、白釉が塗られ絵付けが施されている。23は、瀬戸美濃系の陶器行平であ



る。口径18.3cm、器高13.5cmを測る。外面底部に「利」の文字が認められる。24は、瀬戸美濃系の陶器土鍋で口径21.6cm、器高11.7cmを測る。底部に3足が付く。25は、植木鉢である。底部に穿孔が認められる。26・27は、土師質の焙烙である。27の口縁部外面にナデつけされた把手のような凸部が認められる。28は、火消し壺で口径13.8cm、器高4.6cmを測る。29は、堺漆焼きの摺り鉢である。口径32cm、器高12cmを測る。30は土師質の火消し壺、31は、土師質の炉であり外面にタタキ痕が残る。32は、土坑に据え付けられていた埋壺であり、土師質を呈する。便槽もしくは肥溜めとして利用されていた可能性が高い。

まとめ

今次調査区は調査面積が狭小であり、また、近代以降の整地によって遺構面が削平を受けていたため、遺構の検出は少なかった。こうした整地は、狹山藩陣屋跡において随所にみられ、近代以降の土地利用に共通する部分がみられる。

出土遺物は、既往の調査と同様の傾向が認められ特筆するものがなかったが、陣屋内の位置関係や各器種の産地傾向などの情報が蓄積していくれば、陣屋内での生活様式が更に詳細になると考えられ、今後は、こうした視点も踏まえ調査を継続していく必要がある。

S J09-1区

調査に至る経過

大阪狭山市東池尻3丁目で計画された個人住宅の建設に伴い、発掘調査をおこなった。調査区は住宅建設によって破壊を受ける箇所の内、約18m²の範囲を対象とした。調査は、測量調査を含め平成21年4月20日から23日まで行った。以下、調査で得られた成果を述べていく。

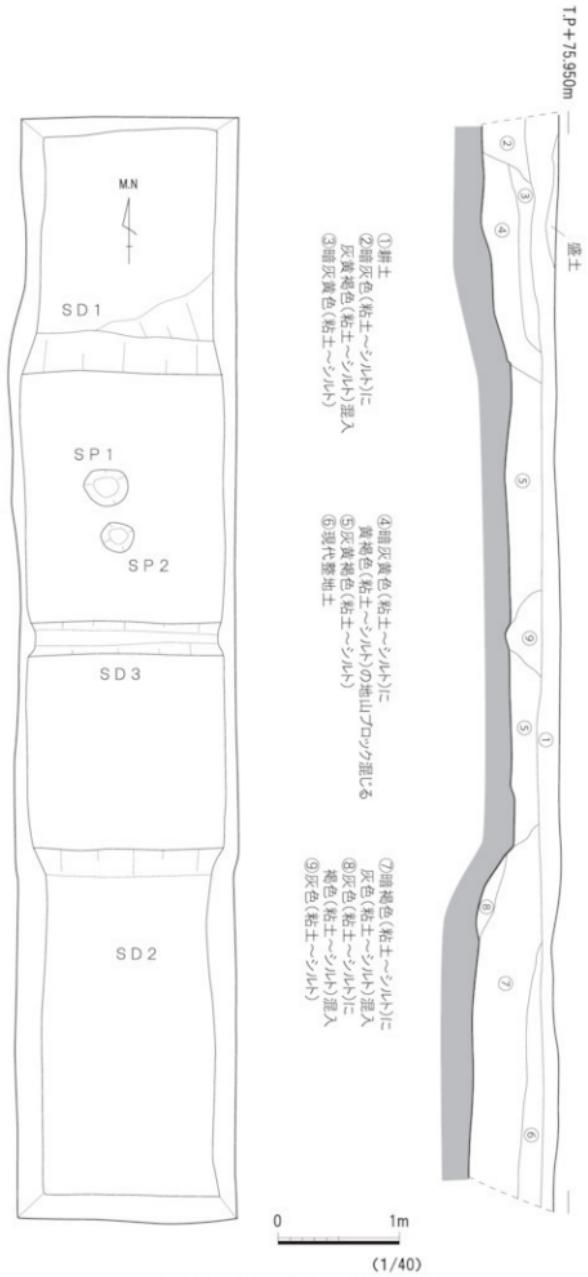
基本層序

地表面から①層は盛土および耕土、層厚約10cm、②層、整地土、黄褐色系(シルト～極細粒砂)と灰黄褐色系(シルト～極細粒砂)の混合土、層厚約10cmであった。②層を除去後、地山となる。遺構は、すべて地山で検出したが、②層の整地土上面から切り込まれる遺構も認められた。これらの遺構や整地土からも遺物が出土していることから、②層の整地土は、いわゆる現代の整地土ではなく、狭山藩陣屋が営まれていた時期に整地されたものであると考えられる。また、調査区中央の地山面では、赤く焼けている箇所がまばらにみられた。

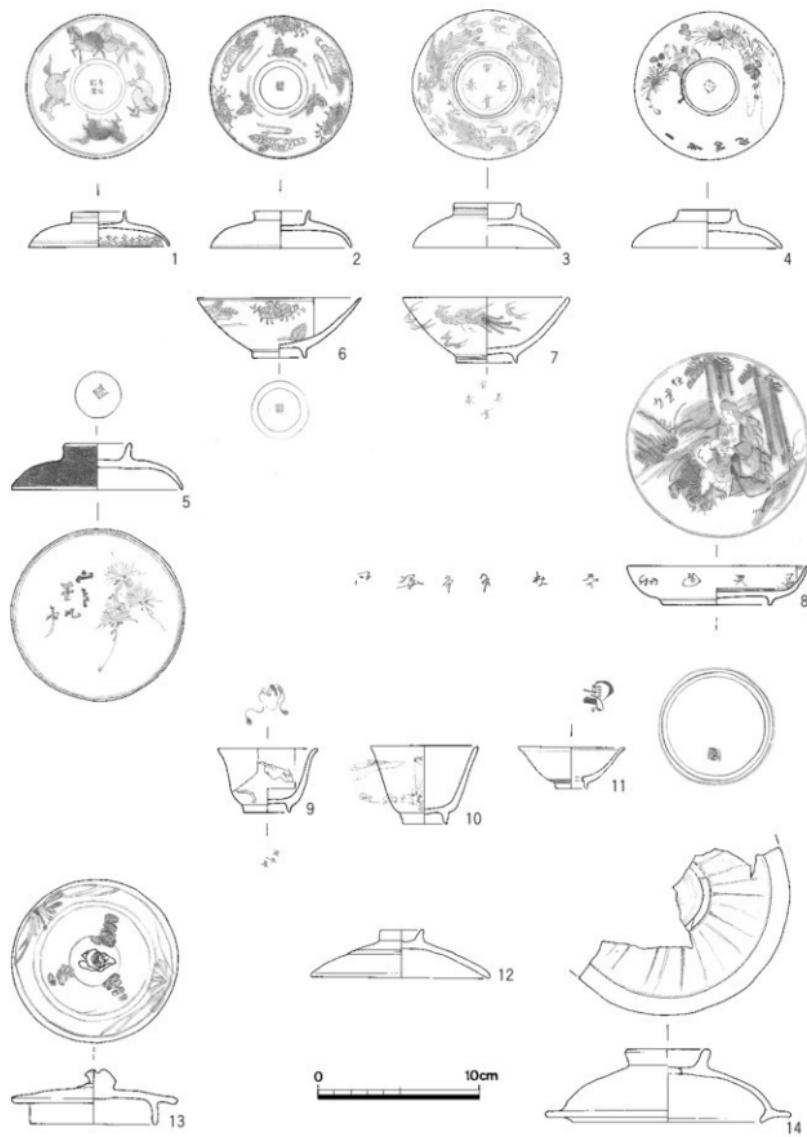
遺構

SD 1とSD 2は調査区北・南端で検出した。遺構の大部分が調査区外へと延びるため、遺構の全容は不明である。また土坑としての性格も考えられるが、確認できる遺構の肩部が、各溝の軸と同じであることから溝として捉えた。両遺構埋土の観察から、流水堆積等はみられず、部分的に地山ブロック土がみられ、人為的な埋め戻しがおこなわれた可能性が高い。

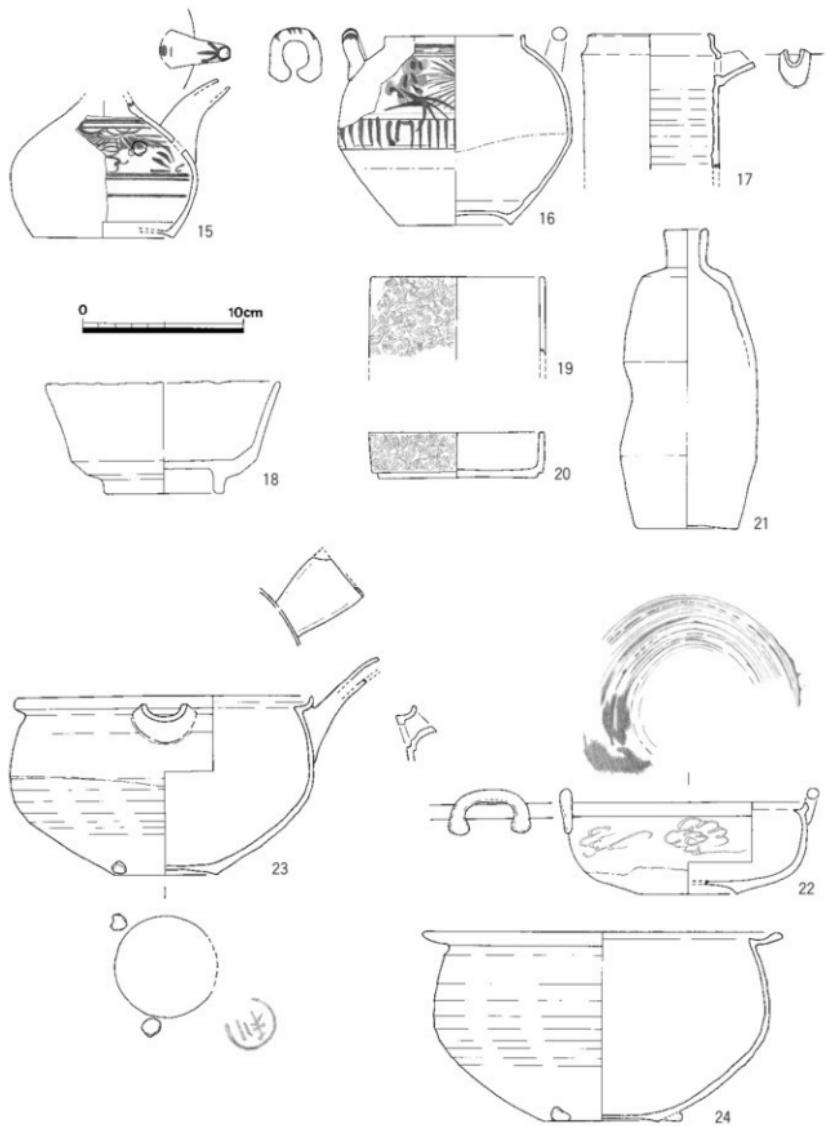
実測できた遺物は、全てSD 1から出土したものである。1は、瀬戸系磁器中碗で外面に仙芸祝寿文が描かれている。2～4は、肥前系磁器中碗である。5は、器種不明品で外面に鳳凰



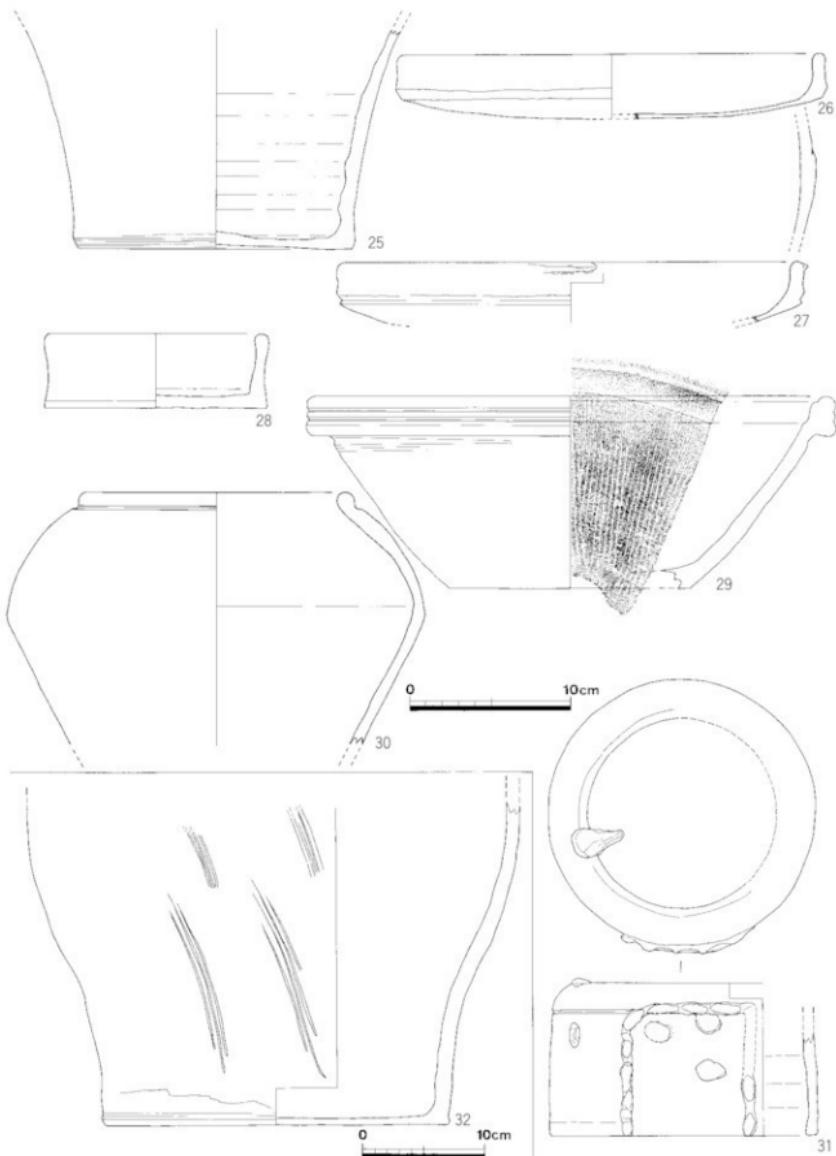
第4図 SJ09-1 遺構平面・断面図



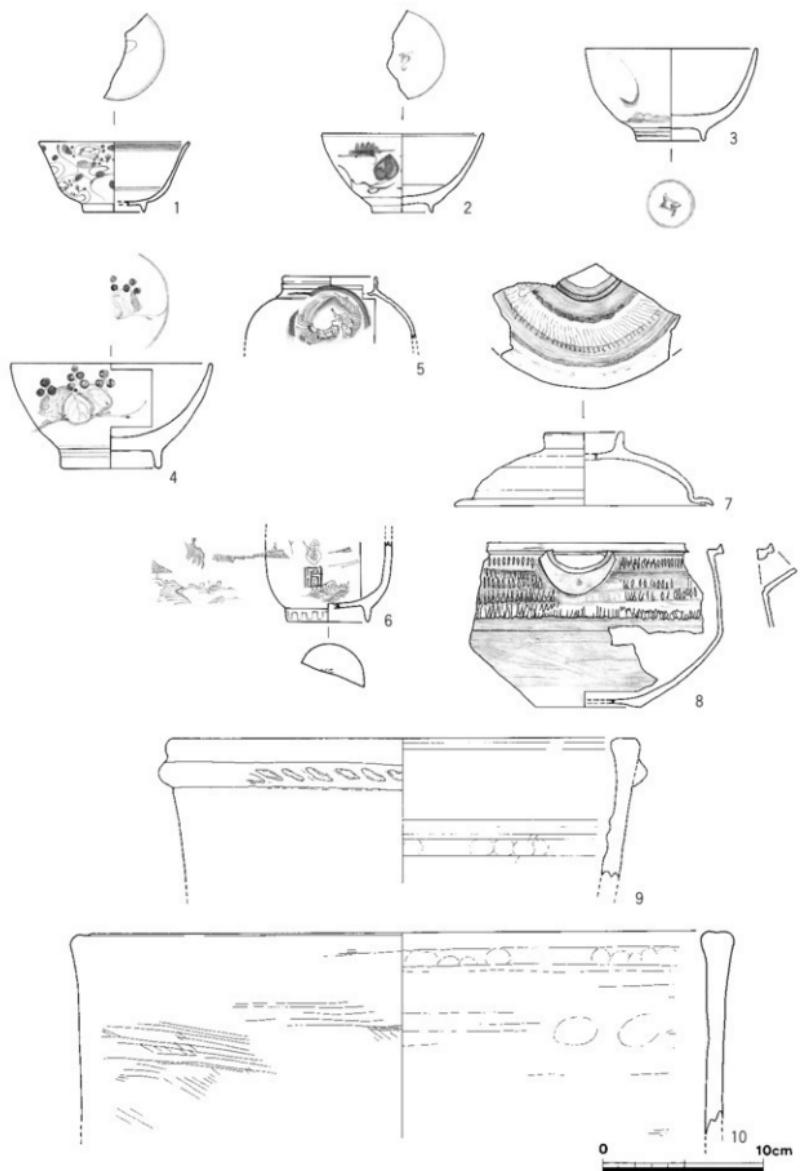
第5図 SJ08-1出土遺物①



第6図 SJ08-1出土遺物②



第7図 SJ08-1出土遺物③



第8図 SJ09-1出土遺物

の染付が施されている。6は、肥前系磁器瓶である。7は京焼系の土鍋蓋、8は瀬戸美濃系陶器行平である。9・10は土師質の甕である。9は口縁付近に突帯状の把手が付く。

SD 2 からは実測できなかたが、肥前系磁器碗、瓦、土師質土器などが出土している。

SD 3 は、調査区中央付近で検出した。検出した地山面では、幅約10cm程度であるが、断面観察から本来の溝幅は約30cmを呈していたものと考えられる。溝底部には平瓦が2枚溝方向に並ぶ形で出土した。排水等を目的とした溝である可能性が高い。

SP 1 と SP 2 は調査区中央付近で検出した。SP 1 の底面には瓦が据えられた状態で出土し、SP 2 の埋土では若干の炭化物も認められた。

まとめ

当該地を含む狹山藩陣屋「御殿」付近は、既往の調査において遺構面が2面検出されている。これは、文献資料で知られる天明2年(1782)の大火後の整地によって形成されたものと考えられ、今次調査区で検出した焼けた地山や、その上面にみられる整地土は、この火災後に形成された可能性が高い。

2. 東野廃寺



第9図 東野廃寺調査区位置図

調査に至る経過

旧蓮光寺境内において、個人住宅建設の計画がなされた。

既往の調査によって、地表面から約1.7mで地山にいたることが判明しており、個人住宅の基礎掘削深度の範囲では、保存可能であると判断した。しかし、現状では、直径1.5mの大木や、竹が生い茂っており、これらの木の伐採、根おこしに伴う掘削において、相当の掘削深度が予想され、今次調査は、基礎掘削工事前の樹木伐採の段階から、市教委の立会いのもと伐採をすすめ、掘削深度の状況に応じて調査区の設定をおこなった。調査は、平成21年7月27日から29日までおこなった。以下、調査で得られた成果を述べていく。

基本層序

地表面から約50cmの層厚で10YR 6/8 明黄褐色の盛土があり、その下、②層10YR 5/6 黄褐色（シルト～極細粒砂）層厚約20cm③層7.5YR 5/6 明褐色（シルト～極細粒砂）層厚約30～40cmで③層除去後地山となる。

遺構・遺物

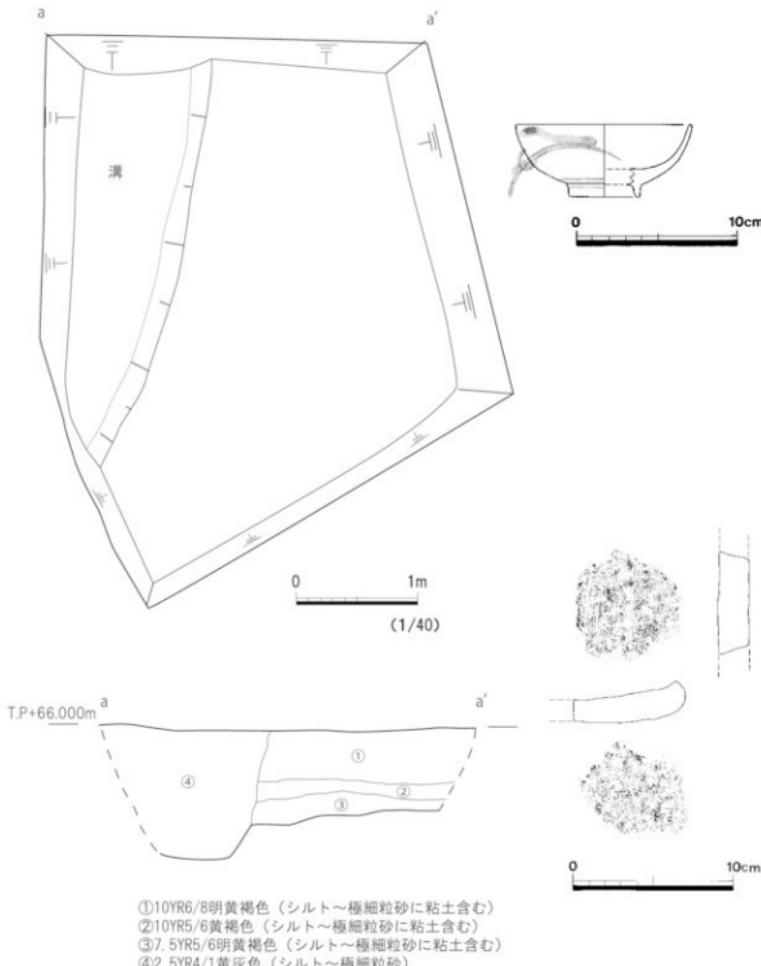
調査区西側で溝状の遺構を確認したが、この溝は、断面観察からみてもわかるように、近年埋没したものである。この溝の掘削時期は確かではないが、この溝方向の南は、旧蓮光寺境内の堀ラインとほぼ一致するため、旧蓮光寺区画が成立した頃に掘削されたものと考えることも可能であろう。この溝から出土した遺物に、布目の痕跡をもつ平瓦片、近世段階の磁器中碗が出土した。既往の大坂府教育委員会の調査でも、白鳳期の軒丸瓦等が出土しており、今次調査で出土した瓦も近似する時期の瓦であると考えられる。

まとめ

今次調査において古代の東野廃寺に伴う遺構は認められなかった。検出した溝については、

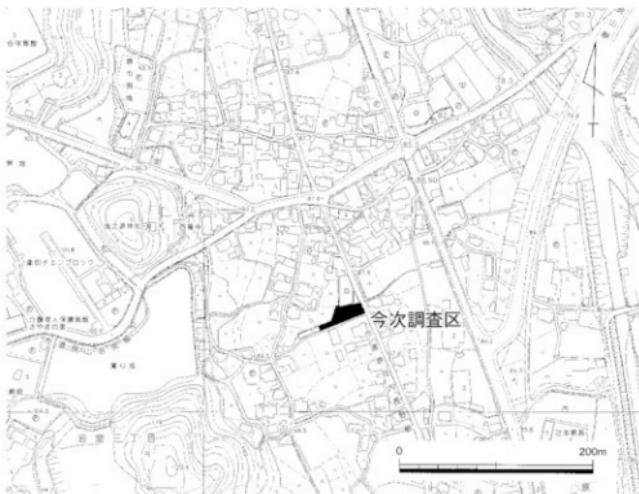
埋没期が近年であり本来なら搅乱扱いとするものであるが、現在も残る境内区画ラインと溝方向が一致することから溝の掘削時期が旧蓮光寺境内区画成立に関連する可能性が高いと考え、遺構と同様の記載をした。

いずれにしても、大阪府教育委員会の調査以来確認できなかった古代の瓦片が出土したことは、古代に関して不明な点が多い本市域にとって重要な資料の蓄積となったと言える。



第10図 東野庵寺 遺構平面・断面図、出土遺物

3. 陶邑窯跡群



第11図 陶邑窯跡群調査区位置図

調査に至る経過

大阪狭山市池之原3丁目において、個人住宅建築に伴う発掘届出が提出され、大阪狭山市教育委員会では、事前調査をおこなった。事前調査では、地表面から約30cm下の地山面を検出、同時に溝と考えられる遺構、現代盛土直下の包含層などが認められた。そのため工事において破壊をうける約80m²の内、約25m²を調査区とした。調査は平成21年10月15日から21日までおこなった。以下、調査で得られた成果を述べていく。

基本層序

今次調査区は狭小な範囲であるが、各壁面においてその様相が異なる。まず、地表面から約10cm～30cmの層厚で表土および盛土であることは共通するものの、その直下約5cm層厚の②層は、焼土ブロックと炭化した層で構成されるが、南側壁面にはその痕跡が確認できない。南側壁面の盛土直下には④層の旧耕土がみられ、その上部には僅かに炭化した痕跡もみられることがから、本来、旧耕土上面にも②層があった可能性が高い。北側壁面では、②層の下に層厚6cm程度の地山ブロックを多く含む③層があり、整地土であると考えられる。③層と④層の新旧関係は層序で確認できないが、共に②層の焼土層下であることを踏まえて、同時期である可能性が高い。

調査の成果

検出した遺構は、ピット4つ、溝1条である。SD1は、南北方向に延び、南側は後世建物

の基礎により破壊を受けているため、後にL字で曲がるのか南進するのかは不明である。この溝の軸は、調査区東側を通る道路と平行している。この道路は、近世段階の絵図にも描かれており、西高野街道から派生する道路であると考えられ。この道路軸に規制された建物や土地区画に付随する溝であると捉えられる。出土遺物として、肥前系陶器碗が出土おり、肥前系陶器碗の編年から17世紀中後半(1650～1690)の年代が与えられる。また、北側壁面断面の観察により、③層整地土を切っているため、後述する柱穴よりも後出のものである。

ピットの内、3つは溝軸とほぼ平行に並ぶ。いずれのピットからも出土遺物は認められず、所属時期は不明であるが、北壁面断面の観察からSP1は、③層の整地土形成以前のものであることがわかる。SP1とSP2～4の時期差は不明であるが、埋土が同じであるため、③の整地以前の可能性が高い。所属時期は、地山直上から出土した土師質甕により、16世紀後半から17世紀前半頃であると考えられる。ただし、この土師質甕が旧耕土からの出土と整地土のいずれの出土であるのかは確認できなかった。

まとめ

今次調査は調査区が狭小であり、出土遺物も過少であるが、中世後期から近世段階にかけての道路沿いにみられる集落動向の一端をみることができた。以下、各遺構や断面観察から得られた情報をもとに今次調査区の変遷を描くことでまとめとしたい。

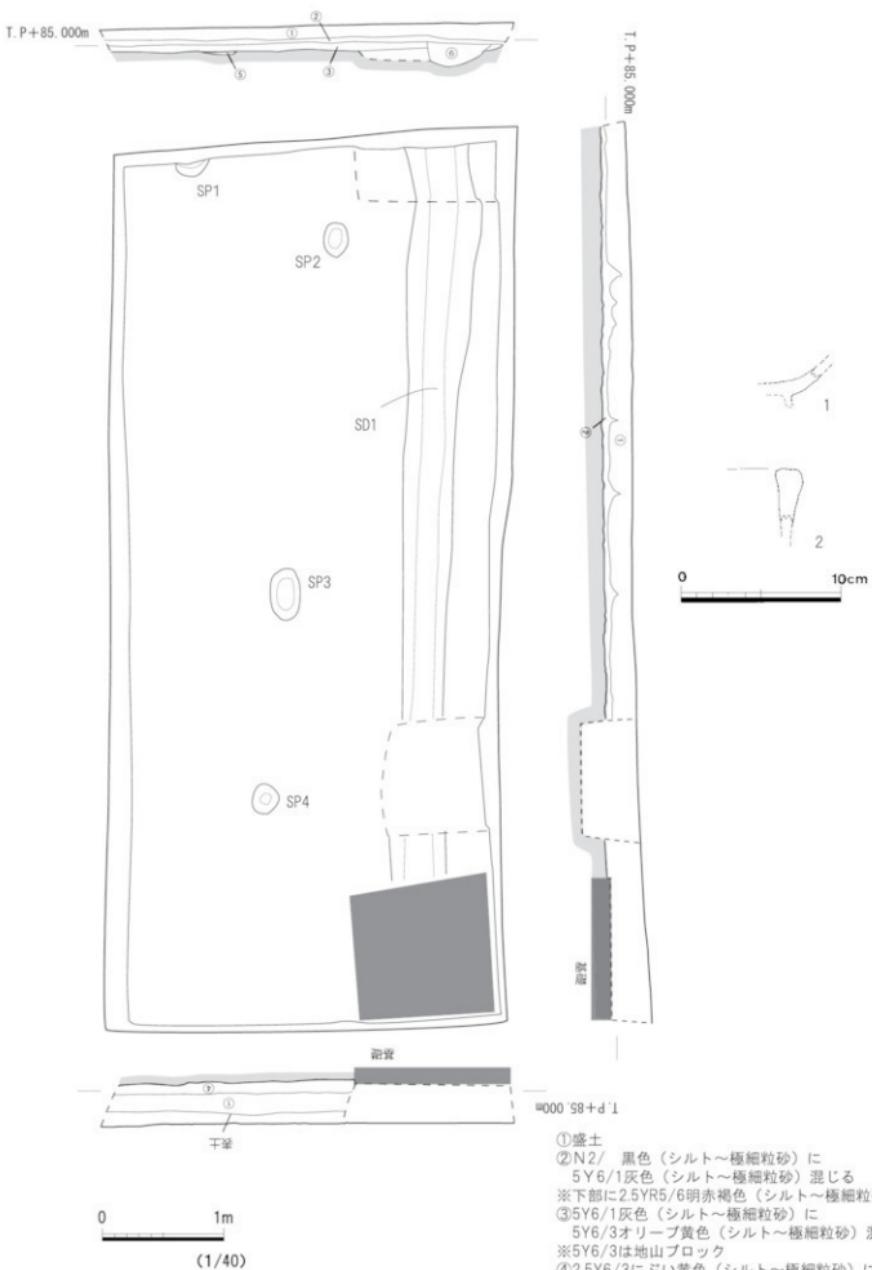
まず、概ね16世紀後半から17世紀前半にかけて、SP2～SP4で構成される建物、あるいは横列が造られるようになる。SP2～SP4の主軸をみると、後に造られるSD1や東側の道路とはほぼ同軸である。SP1は、これらとは位置関係からみて同じ建物とはならず、複数の建物か時間差のある建物が存在したものと考えられる。

これらの建物群は、17世紀後半に人为的に整地され、また、ほぼ同時期に調査区南側において耕地化、東側においてSD1が造られる。

街道沿いの河内長野市三日市宿跡や富田林市の寺内町遺跡の調査成果を踏まえる近世段階の屋敷地は、道路前面に建物、建物の裏側に区画溝等を設け排水溝とし、後背地は田畠として利用されていることが確認されている。これらの成果を加味すると、当該地の場合、調査区東側の西高野街道とSD1の間に屋敷地が設けられ、その後背地に該当する調査区内が耕地として利用されたものと捉えることができる。

なお、整地土上面から切り切り込む遺構はSD1以外確認されておらず、整地土が確認された北側では木の根痕が複数認められるため、庭や空地であった可能性が高い。

中世後半の様相が未だ不明な点が多く、また、街道沿いの調査事例も多いとは言えない本市域の中で、今次調査の成果は街道沿いにおける中世後半から近世前半の屋敷地の様相や変遷を考える上で貴重な成果であったと言える。



第12図 陶邑窯跡群遺構平面・断面図、出土遺物

- ①盛土
- ②N2/ 黒色（シルト～極細粒砂）に
5Y6/1灰色（シルト～極細粒砂）混じる
※下部に2.5YR5/6明赤褐色（シルト～極細粒砂）混入
- ③5Y6/1灰色（シルト～極細粒砂）に
5Y6/3オリーブ黄色（シルト～極細粒砂）混じる
※5Y6/3は地山ブロック
- ④2.5Y6/3にぶい黄色（シルト～極細粒砂）に
5.2.5Y6/1灰色（シルト～極細粒砂）
- ⑤2.5Y6/3にぶい黄色（シルト～極細粒砂）に
2.5Y6/1灰色（シルト～極細粒砂）混じる

4. 試掘調査（狭山1丁目）



第13図 半田北遺跡位置図

器片を包含する層がトレンチ全体で認められた。7層目は同トレンチ内ではほぼ水平に堆積しており、良好な包含層として位置づけられる。また、5層・6層目からも遺物が散見でき、複数の遺構面が存在する可能性が高い。

以上のような調査結果から、当該地は「埋蔵文化財包蔵地」として位置づけることができる。次にその範囲についてであるが、当該地周辺の地形は、調査区西側の開発が進んでいる関係から谷状の地形にみえるが、巨視的に見れば東高西低、南高北低で、東に隣接する「中高野街道」から緩やかに西の狭山池へと標高を下げる緩斜面地である。微視的に見れば、特に第2・第3トレンチを設けたレベルは、さらに緩やかな形状で平坦面を形成し南北方向へと延びる。この平坦面から「中高野街道」までの範囲が今次調査で得られた黒色土器を有する「周知の埋蔵文化財包蔵地」の範囲として、その遺跡名を地名「半田」から「半田北」遺跡とするのが相当であると考える。

大阪狭山市狭山1丁目817、半田6丁目838-2他11筆において、宅地造成計画が民間会社より出され、大阪狭山市教育委員会では、開発業者より試掘依頼書を受け、試掘調査をおこなった。試掘トレンチは、開発土地区画一体にみられる東高西低、南高北低の地形を加味した上で、特に道路施設予定部部分の堆積状況を知ることを目的に3箇所設定した。その内2か所のトレンチでは、耕土やそれに伴う整地土直下が地山であり、後世の削平を受けていた。

最も北側に設置したトレンチは、後世の搅乱を受けず良好に堆積状況を確認できた。特に7層目は、黒色土器を含む土師

平成21年度 調査一覧表（平成21年4月～12月まで）

	遺跡名	位 置	調査日	調査原因	規 模	指示内容	概 要
1	陶邑窯跡群	池之原2丁目 1060番2、1103番1	H21.4.9	店舗建設	575.00	発掘調査	地表面から約60cmで地山面を確認。包含層、遺構・遺物の確認なし。
2	狹山藩陣屋跡	東池尻3丁目 2544、2544番6の各一部	H21.4.23	個人住宅	240.04	発掘調査	本報告に収録
3	池尻城跡	池尻中1丁目 241-2、242、他	H21.5.11	宅地開発	493.29	発掘調査	3箇所のトレンチを設定。地表面から約30cm程度で地山を検出、包含層、遺構・遺物の確認なし。
4	陶邑窯跡群	池之原2丁目 1120-1、他	H21.5.19	個人住宅	2304.50	発掘調査	4箇所のトレンチを設定。地表面から20～30cmで地山面を検出。包含層、遺構・遺物の確認なし。
5	池尻城跡	池尻中3-614-7	H21.5.20	個人住宅	103.17	発掘調査	1mのトレンチを設定。地表面から約60cmで地山面を検出。包含層、遺構・遺物の確認なし。
6	陶邑窯跡群	池之原3-539-1-1	H21.5.25	個人住宅	142.66	発掘調査	地表面から40cmで地山面を検出。包含層、遺構・遺物の確認なし。
7	遺跡外	茱萸木6-1068-1,1069、他	H21.6.18	店舗建設	1050.21	試掘調査	3箇所のトレンチ設定。地表面から1.5m掘削。地山の確認できず。
8	陶邑窯跡群	今熊 3-2178-1,2179-1の各一部	H21.6.19	個人住宅	118.30	発掘調査	地表面から40cmを掘削。地表面から約30cm程度で地山を検出、包含層、遺構・遺物の確認なし。
9	遺跡外	狹山1-817、半田6-838-2	H21.7.6	宅地開発	4741.65	試掘調査	本報告に収録
10	半田遺跡	半田3-1705-5	H21.7.9	個人住宅	183.19	発掘調査	2箇所のトレンチを設定。地山面を検出。包含層、遺構・遺物の確認なし。

11	半田遺跡	半田3-1676-1、1676-3	H21.7.14	個人住宅	373.36	発掘調査	地表面から約20cmで地山を検出、包含層、遺構・遺物の確認なし。
12	東野廃寺	東野中2-987	H21.7.27	個人住宅	340.61	発掘調査	本報告に収録
13	半田遺跡	半田3-1659-4	H21.8.10	個人住宅	104.32	発掘調査	地表面から40cmを掘削。盛土のみで包含層、遺構・遺物の確認なし。
14	陶邑窯跡群	池之原3-611-2610	H21.8.21	個人住宅	559.80	発掘調査	地表面から約5cm程度で地山を検出、包含層、遺構の確認なし。須恵器1点が出土。盛土工事を確認後、慎重工事を指示。
15	陶邑窯跡群	今熊3-404他	H21.9.2	個人住宅	1184.28	発掘調査	2箇所のトレンチを設定。地表面から2mを掘削。ベース面を確認したが、地山、包含層、遺構・遺物の確認なし。
16	陶邑窯跡群	今熊3-423、429の各一部	H21.9.2	個人住宅	291.05	発掘調査	地表面から2mを掘削。地山、包含層、遺構・遺物の確認なし。
17	遺跡外	東池尻5-1283-7他	H21.9.15	宅地開発	1078.70	試掘調査	地表面直下が地山となり、包含層、遺構の確認なし。現代盛土の中には瓦や土師器破片を認めるが、詳細は不明。
18	池尻城跡	池尻中3-614-30	H21.9.30	個人住宅	100.82	発掘調査	地表面から約30cmで地山面を検出。包含層、遺構・遺物の確認なし。
19	遺跡外	池尻北1-432-10の一部、他	H21.10.5	エレベーター設置	100.00	試掘調査	工事予定地を掘削。昔の浄化槽があり、周囲は廃棄物が残り、地山の確認はできず。
20	池尻城跡	池尻中1-240-2、-12、他	H21.10.14	宅地開発	367.18	発掘調査	地表面から約30~50cmで地山面を検出。包含層、遺構・遺物の確認なし。
21	陶邑窯跡群	池之原3-639-2	H21.10.15	個人住宅	573.70	発掘調査	本報告に収録

22	陶邑窯跡群	山本東 440 - 3	H21.10.27	個人住宅	401.98	発掘調査	地表面から約 25cm で地山面を検出。包含層、遺構・遺物の確認なし。
23	陶邑窯跡群	菜萸木 3-253-1 の一部、1435 の一部	H21.11.2	個人住宅	102.84	発掘調査	地表面から約 1.1m まで掘削。地山面、包含層、遺構・遺物の確認なし。
24	遺跡外	東池尻 3 - 1003 - 1 - 1004 他	H21.11.16	個人住宅	1392.67	試掘調査	地表面から約 50cm まで掘削。地山面の一部を検出。遺構の確認なし。
25	池尻城跡	池尻自由丘 3 - 203 - 4	H21.11.18	個人住宅	153.06	発掘調査	地表面から約 30cm で約 10cm の近世の遺物を含む整地層を確認。積重工事を指示。
26	池尻城跡	池尻中 1-520-7 の一部	H21.11.24	個人住宅	165.72	発掘調査	地表面から約 10cm で地山を確認。遺物・遺構の確認なし。
27	陶邑窯跡群	岩室 3-334-2 の一部他	H21.11.27	看板設置	234.82	発掘調査	地表面から約 30cm で地山を検出。包含層、遺構・遺物の確認なし。
28	中高野街道	狹山 1 - 732・733 - 1 - 734	H21.11.30	宅地開発	901.40	発掘調査	地表面から約 1.6m で地山を検出。包含層、遺構・遺物の確認なし。
29	陶邑窯跡群	池之原 4 - 983 - 1	H21.12.3	個人住宅	179.95	発掘調査	地表面から約 20cm 程度で地山を検出、包含層、遺構・遺物の確認なし。
30	狹山神社遺跡	半田 5 - 119 - 7、119 - 13	H21.12.4	個人住宅	183.42	発掘調査	地表面から約 30 ~ 40cm で地山を検出、包含層、遺構・遺物の確認なし。
31	陶邑窯跡群	今熊 6 - 415 - 1、1046 の各一部	H21.12.14	個人住宅	199.31	発掘調査	地表面から約 30cm で地山を検出、包含層、遺構・遺物の確認なし。
32	陶邑窯跡群	今熊 6 - 300 他	H21.12.21	工場建設	33775.1	発掘調査	地表面から 60cm を掘削。包含層、遺構・遺物の確認なし。
33	遺跡外	池尻自由丘 1 - 341 の一部	H21.12.28	防災倉庫建設	712.00	試掘調査	地表面から約 2 m を掘削。地山面・遺構・遺物等の確認なし。

報 告 書 抄 錄

ふりがな	おおかさやましないいせきぐんはくつちょうさがいようほうこくしょ20						
書名	大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書20						
副書名							
卷次							
シリーズ名	大阪狭山市文化財報告書						
シリーズ番号	37						
編著者名	藤田徹也						
編集機関	大阪狭山市教育委員会						
所在地	〒589-8501 大阪府大阪狭山市狭山1丁目2384-1 TEL.072-366-0011						
発行年月日	西暦 2010年3月31日						
所蔵遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	調査区	北緯	東経	調査面積 m ²	調査原因
さやまほんじんやあと 狭山藩陣屋跡	おおかさやましやま 大阪狭山市 さやま 狭山	27231	—	08-1 34° 30' 25"	135° 33' 21"	8.5	個人 住宅
	おおかさやましやま 大阪狭山市 ひがいわじり 東池尻	27231	—	09-1 34° 30' 32"	135° 33' 14"	18	個人 住宅
ひがしのはいじ 東野庵寺	おおかさやましやま 大阪狭山市 ひがしのなか 東野中	27231	—	09-1 34° 31' 08"	135° 33' 24"	4	個人 住宅
すえむらかまあとぐん 陶邑窯跡群	おおかさやましやま 大阪狭山市 いのむらから 池之原	27231	—	09-1 34° 30' 13"	135° 32' 39"	25	個人 住宅
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
狭山藩陣屋跡	城館	近世	ピット・土坑・溝	磁器碗など			
東野庵寺	寺院	古代	溝	瓦など			
陶邑窯跡群	生産遺跡	古墳	ピット・溝	土師器・陶磁器	検出遺構は中世～近世		

図 版



1



2



3



4



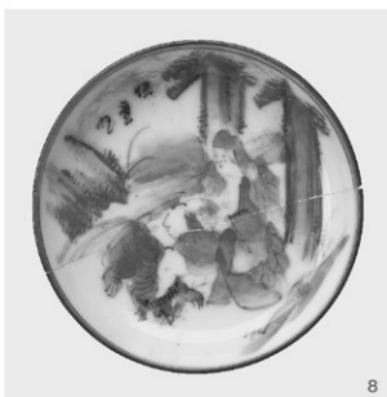
5



6



7



8



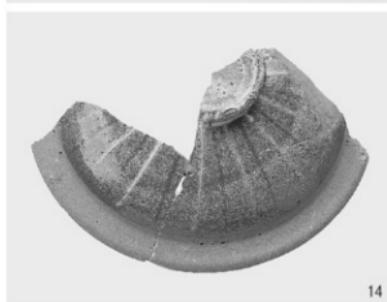
11

9

10



12



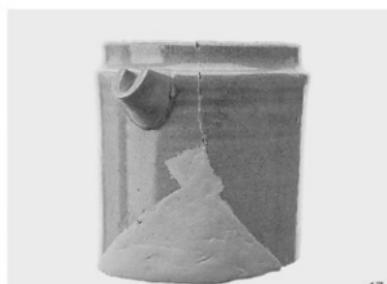
14



13



15



17



16



18



19



21



20



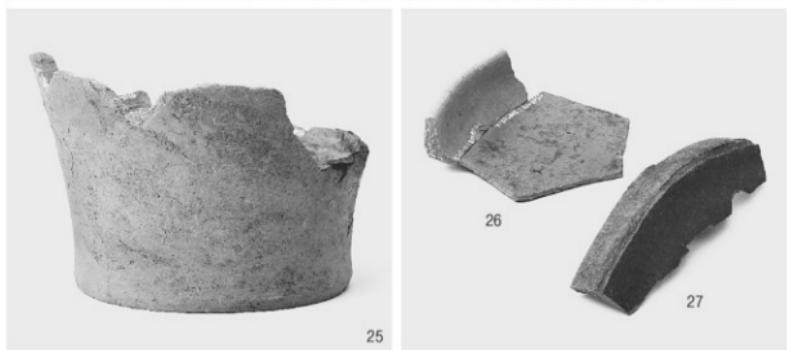
22



23



24



25



26

27



28



29



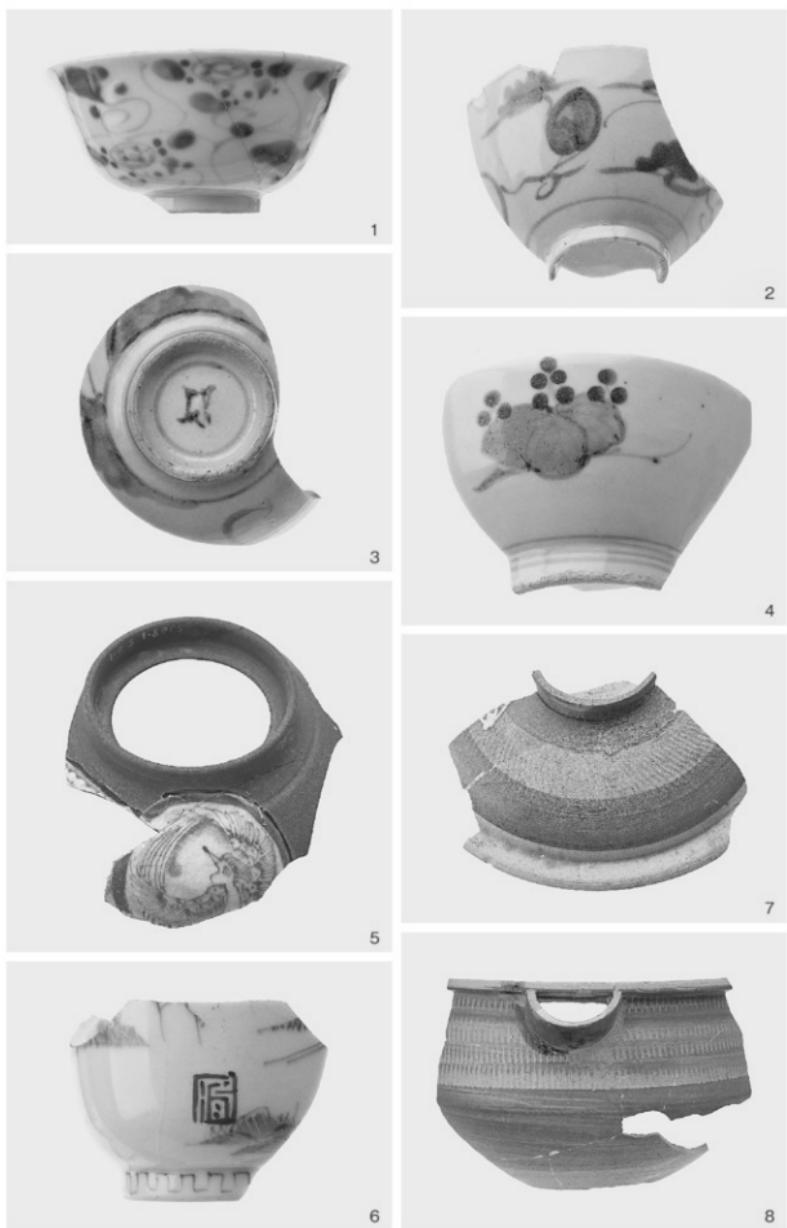
30



31



32



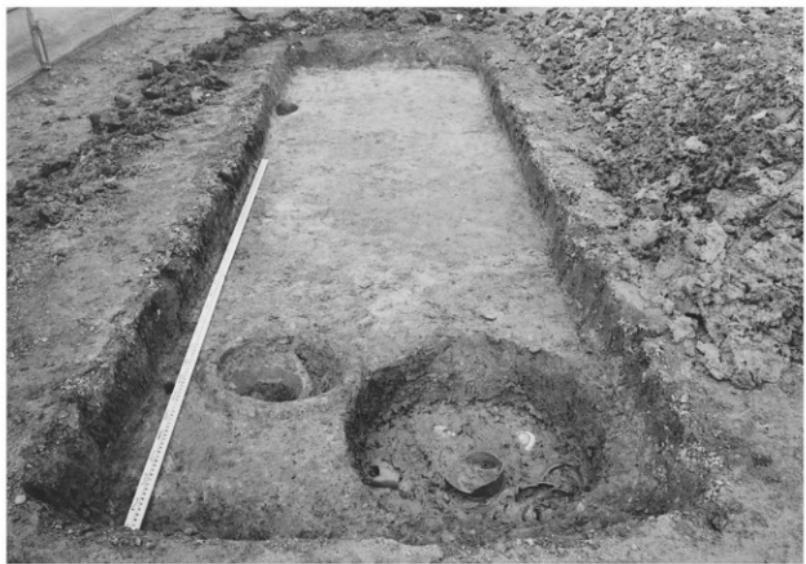


9



10





調査区全景（南から）



土坑内遺物検出状況

図版9 狹山藩陣屋跡09—1区・東野庵寺跡



狹山藩陣屋跡
09-1 全景



狹山藩陣屋跡
09-1 断面（西から）



東野庵寺全景



陶邑窯跡群
全景（南から）



陶邑窯跡群
全景（西から）



試掘（半田北遺跡）
断面

大阪狭山市文化財報告書37

大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 20

発 行 日 平成22年(2010年)3月31日

編集・発行 大阪狭山市教育委員会

大阪府大阪狭山市狹山一丁目2384番地の1

印 刷 橋本印刷株式会社

奈良県葛城市竹内365番地 1